

タカラコラボラボ 第4回・第1期第4回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和6年(2024年)2月26日(月) 18:30~19:50
開催場所	第2庁舎 会議室A・B
次 第	1 開会 2 議事 (1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について 3 その他 4 閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、岡田委員、橋之爪委員
開催形態	公開(傍聴人1名)

1 開会

事務局から、本日の出席者は8名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は1名であることを報告した。

2 アイスブレイク

2グループに分かれてアイスブレイク(「皆さんに知ってほしいこと」教えてください!)を行った。

3 議事

(1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア 「⑧関心はあるがやり方・関わり方が分からない」という方々に「まちづくりに関心はありますか?」と聞いてもなかなか返事が来ないと思う。アンケートを取っても「まちづくりって何?」となると思う。そのあたりがぼんやりしているため自分はどうしたらいいのか、自分の関心事とどういうふうに結びつけたらいいのかがイメージできない。事例を踏まえてまちづくりとは何かという説明をすること必要だと思う。

イ (会長) 関心はあるが何に関心があるかを説明したらいいですよというお話だったと思う。

ウ プレイヤーになる先が、今のまち協とかの現状を見ていると、ここに参加してくださっている方の地域は関わりやすい入口があるのかなと思うが、まだまだ他の地域の声を聞くと、あまり新しい人を受け入れる体制がない地域も少なくない。若い人はお手伝いで強制的に初期参加するということも聞いたので、参加したくても枠がない。どういう選択肢が自分にあるのか見えていない。

- エ （会長）受け入れる側がどうなのか、地域によって違う。それをどうするのか。地域団体の活動に対して関わっていただくという場合と、個人や市民活動、自分の興味対象にかかることに関わっていく場合と2つあるのか。
- オ （事務局）資料をまとめている中で、それぞれ活動されている方の顔を思い浮かべながら整理をしていくと、その団体に属して会長や部会長というレベルで活動されている方以外でも、自分のテーマでNPO 法人をつくって活動されていたり、法人とかではなく個人で周りの方たちと一緒に活動されている方の顔も思い浮かんだので、この地域団体のところでくくってしまうのは違うと思った。
- カ （会長）いろんなタイプの団体が地域にはあって、役が必要な団体、そうじゃない団体もあるので、やりたいと思っている方に選んでもらうというのがいいということだと思う。PTA でも、私は役をするのが嫌だからお祭りや市民運動会のような一日だけならお手伝いしますよという方が増えてきている。一時的なボランティアのような形で活動されている。活動にもいろんなニーズがある。
- キ （事務局）自分のやりたい活動からまず始めていただいたら、そういう方が結果的に自治会やまち協につながって、いつのまにかまち協の会長をしていたというパターンもなくはないので、まずはハードルを低く始めてもらうのがいいのかなと思う。
- ク （会長）それは選んでもらうのか、誰かがマッチングするのか。
- ケ 活動をしましようではなくて、課題感とかこうなっていたらいいなというまちへの思いや地域との関わりとかがあって、これってどうしたらいいのかなとなんとも思っている時に何かやりたいなと思っているのだったら、こういうやり方があるよというような形がいいのではないかな。目的なしではないが、やったらいいよ、ここに暮らしているならやるべきというふうになってしまうと、逆に離れていってしまいそう。
- コ ア委員がおっしゃったように「まちづくりって何だろう」というのがひとつ基本だと思う。またケ委員がおっしゃったように自分の意識の中でこういうことが課題だと思う方々はいいが、そういうことを一切思わない人もいる。そうするとまちづくりってなんだろうかと改めて考えることが大切。先日、広報の原稿を作成している時に、プレイヤーがいなくなっている中で、改めて広報を変えたが、改めてまちづくりって何かを調べてみたら、そこに住んでいる人達が幸せに暮らせることということが見えてきた。一つの例が出ていたのは、まちを例えば大企業、大規模開発の中に任せていくと、今まで住んでいた人がだんだん住みにくくなるということがある。先日も熊本で半導体の工場ができた。人がいっぱい来たから地元の飲食店はすごく潤った。ところが、半導体の工場に人が取られていく。そうすると人件費がどんどん高くなっていく。飲食店もそこまで時給を上げることができないから人が来ない。あるいは地元で安く野菜を売っていたところは賃料が上がったから商売を続けることができない。こうしたことが本当にまちづくりだろうかという話。私が思うに、いろんな問題

を意識する人はいいが、何もなかったらどんどんやりたい人がやってしまう。気づいたら自分たちの住む場所がない。幸せかどうか分からない。そういうところをまちづくりって何だろう、他人任せにしたらダメだよ、自分たちが意識を持たないとまちはよくなるよ、幸せに暮らせないよということを気づかせないといけないと思う。他人任せにしていたらなんでもいけるという考えは払拭していかないと、いつまでたってもプレイヤーは現れてこないと思う。そこをどうやって知らせていくか。いろんな事例を挙げていく中で、東京はマンションが1億4〜5千万円ぐらいになっていて、東京ではなかなか住めないという状況になってきている。元々そこに住んでいた方が、評価額が高騰していくと税金が払えなくなってくる。どこかへいかないといけない。こういうことも事例として挙げていくと、「そうかまちづくりはこういうことだから関わらないといけない」という意識を持てたらいいと思う。

サ 今回の話を聞いて、まち協でもよく話しているのですが、今回のイベントで実施できなくてもいいと思うが、長い目で見たときに、子どもたちがこういうことに関わって、例えば自分のまちに関わって公園がこうなったらいいなとか、自分たちで考えて実現できたという体験をさせてあげられたら、プレイヤーに繋がっていくのではないかなと思う。そういう観点もあるのかなと思った。

シ （会長）まず目的。今出てきたのが何のためにやっていくのか、まちづくりっていったい何？何のためにやっていくの？それはみんなが幸せであるためにという話が出てきて、目的を大きく考える。自分事として捉えてもらえるような方法がいいと思う。

ス 先ほどから疑問を感じているのが、無関心層とはどういった方を指すのか。例えば、市がお祭りをした。たくさん人が来る。その人達は無関心層なのか。無関心層というのは地域団体で活動することに対して無関心、NPO 法人の活動に対して無関心、まち協を活動に対して無関心。まちづくり協議会や自治会のお祭りやイベントを開催した時にたくさん人が来るが、その中に無関心の人がいるのではないかな。だから、無関心という考え方、定義が地域活動団体や市民活動団体に対して無関心ということ。私が小さい頃、神社でお祭りがあった。子供たちが法被を着て、みんなお神輿を担いでいる。我々は見ている、お神輿担ぎたいけど、あの法被はどうやってもらえるのかという感覚があったと思う。だから、団体で何かしているのは、そういう人たちだよというのを一般の人に分かるようにしないといけないというのが私のテーマである。一生懸命役員をしたり、警備をしたりしている人たちの仲間に入るためにはどうしたらいいのかと関心を向けないと人が寄ってこない。今、小学校の運動会は保護者の参加はありませんよね。昔は運動会に行って、孫が走るのを見て、小さい子を含めて、小学校に入学したらあんなふうに走れる、騎馬戦ができるという関心を持たせる行事でもあった。けれど、小学生だけでしていたら全く周りに関心を持たない。だから、無関心層をいうのをきっちりしておかないと宝塚市に住んで

いる自体も無関心のような様々な捉え方があるため、定義しておかないと無関心層にアタックできないと思う。活動しているところに皆さん行くのは行くから無関心層ではない。そういう人たちは多い。

セ 無知、無関心の方が何を知らないのかということだと思うが、例えば、私は今でこそまち協のことを知っているが、引っ越してきて小学校で開催しているお祭りに行った時にまち協がしているということは誰も知らない。小学校が開催していると思っている。いざお祭りに行ってみてもまち協を PR している方がいなくて、お祭りのブースをしているだけで、ボランティアだと言われても全然ピンとこないし、例えば来年はイベントの開催危機だとかそういう話も全く入ってこない。最近思っていることはヘルプを出してほしい、人手不足であるということに対してヘルプをまち協・自治会から出してほしいと思う。こちらからはあまりそういう風には見えてなくて、やることすべていいよ、やった方がいいよということは入ってくるけど、必要性を感じない。実際やらないとまちは回っていかないし、自分たちがいずれはやらないといけないことと今のうちから知っておいた方がいいとここまでやってみてようやく分かるけど、中々その段階では分からないと思う。

ソ セ委員が言われたように、最初の段階では誰も分からない。私も分からなかった。ただ、声がかかった時にずっと入ってくる人と、声がかかったとしてもそこはちょっとという人がいる。最近、アイディアを出したのが、お祭りの時にお手伝いを募集する。その時に来てくださいとしていても、こちらからの確な指示を出さないと動けない。長年ずっとやっているメンバーは何をするか分かる。その時だけ手伝いに来た人たちは何をしたらいいのか分からない。だからお祭りをするにしてもお祭りでこういうことがありますよ、こういうことをしてほしい人を募集しますという募集の方法をとると、技術があれば私がやりましょうかと手をあげてくださる。受け入れる側の問題として次にやっていかないといけないことはお手伝いを募集する時に、どういう仕事や役割があるかということを確認しておく必要があると思う。そこからやっているうちに段々とこういうことをしているという話もできるし、この仕事だったらやりますということも増えてくると思う。先ほどの無関心の話から始まり、お手伝いの募集に手を挙げてくだされば関心がある。そういう人たちにどういう仕事をしてもらうのかについて、「あなたこれやってください」よりも逆に「こういう仕事だったら私できます」というのを増やして、全部が全部できないけれど自主的に自分がやりたい仕事に関してはやりますよというのも受け入れる側としてはある程度作っていかないといけないと思う。単に手伝ってくださいだけでは、来たけど何の仕事もないとなるから、こういうことしますよと最初の段階で話すことによって、そこでその方が新しいリーダーとしてまとめてやってくれるかなと思う。2年ほどはこういうことを意識してやっている。集まった時に、必ず顔を合わせて活動内容を紹介している。

- タ （会長）指示を出す側もちゃんと順序立てて説明し、こういう活動ですがいいですかという聞き方をして自分で選んでもらう。突然あれこれやってくださいとなると嫌になる。嫌にならないような接し方をしてあげたらいいということ。
- チ 始めて参加した人が次も来ようかなと思ってもらえるような仕組みにしていきたい。
- ツ （会長）言い過ぎかもしれないが、ある意味新しい活動をするにあたってはホスピタリティ、気遣いが必要である。
- テ 地域活動も企業経営と一緒に。企業経営の中でいろんな役割を持っている人がいるわけだから、そういったことを地域活動の中でもきちんと明確にしていく。
- ト 地域活動だけではなくて、テーマ活動をされている方も心掛けていて共通する手法かと思う。
- ナ （事務局）資料2の表があっているかは置いておいて、今大きく2つの話をしてくださっていると聞いていた。1つは受け入れ側の問題。ホスピタリティをどう高めていくか。そういうところの話は資料2の表でいうと、まさにプレイヤーに対してどういう啓発をしていくかという話だと思う。その前に話に出ていた、そもそもまちづくりに関わっていかないといい街になっていかないという課題意識を持ってもらうとか、課題を感じているがどうすればいいかというもやもやとしたことを共有する場を作るというのが、プレイヤーではない方にどうアプローチしていくかという視点での話であったと思う。今回のイベントでどちらをターゲットにしていくか。どちらもできたら一番いいが、たぶん何もかもターゲットにしてしまうとどっちつかずという感じになってしまう可能性があるので、今回のイベントでいうとプレイヤーではない方なのか、プレイヤーの方を啓発していくのか、この辺りからまず絞り込めたらいいのかなと思った。
- ニ 今私たちが一番危機に思っているのは、プレイヤーでない人たちにプレイヤーになってもらうのが大事かと思う。プレイヤーの方にはいつでもできると思う。無関心から「⑧関心はあるがやり方・関わり方が分からない」にあげて、⑧からどう上にあげていくか。
- ヌ （事務局）これまでの意見交換の中でもプレイヤーでない方々にどうアプローチしていくかというご意見も多かったと思うので、ターゲットはプレイヤーではない方に何かイベントで啓発していくというところで合意は取れていると思う。
- ネ プレイヤーとプレイヤーでないところに関わることで、プレイヤー側がどれだけ熱意をもってこういうことをやりたいということを伝え、ホスピタリティも当然大切ではあるが、熱意を伝えていかないとなかなか無関心層の方たちは動かないと思う。課題やこうありたい、やりたいというものを伝えることができるようにプレイヤー側は常々注意していただきたい。単に集まってこの作業をしてくださいというようなパーツを渡してやってもらうだけではなくて、全体

- を見せてこういうことをしたいですと伝えていかないと、「⑧関心はあるがやり方・関わり方が分からない」、「⑨無関心」の人は動いてもらえないと思う。
- ノ 例えば「⑧関心はあるがやり方・関わり方が分からない」、「⑨無関心」の方をターゲットにしたとしても⑧⑨の方では全然やり方が違うと思う。⑧だとある程度関心はあるということなので、それに準ずるようなイベントに来てくれても、自分から情報を取りに行っている人だからかなりやる気のある、前向きに来て下さる方だと思う。ただ無関心の方は情報すら取りに行っていないので、情報を取りに行っていない方に情報を届けるのはかなりハードルが高い。例えばお祭りのような楽しいことを入口にするのか分からないが、⑧⑨どちらをターゲットにするかでかなり方法は変わってくると思った。私はよく⑧の方向けのイベントやセミナーをさせてもらうが、なかなか数はすごく少ないなとやっっていて実感しているし、届け方も難しいと思っている。「べき」ではなくやりたいことからやってみようということを引きかかり、フックにしてイベントを開催している。やりたいことが実は地域に繋がっていたり、地域で実現する可能性があるということ伝えることも大切だと思う。
- ハ （会長）関心はあるけれど、やり方や関わり方が分からない層はある程度何とかできる。無関心層はなかなか難しい。
- ヒ 先ほど私が事例にあげたような危機感を仰ぐ、例えば全国で他人任せにしたらどうなったのか事例として挙げてワークショップをやることもどうかと思う。こういうやり方をしたらいいと思うが私たちが狙っているターゲットの方が来てくれるかどうかというところが一つ課題である。
- フ （会長）無関心層も見捨てるわけではなく考えにはあるが、まず今回のイベントの対象者としては⑧をターゲットにする発想でよろしいでしょうか。もう少し広げた方がいいという意見はあるか。
- ヘ 「⑧関心はあるがやり方・関わり方が分からない人」が「⑨無関心」の人を引っ張ってきてくれたらいいなと思う。一つ事例があって、先日保護者の方と話をしている中で、宝塚市内もあちこちで学級閉鎖になっている。一方のクラスは授業をしている、学級閉鎖になったクラスから一人授業をしているクラスに入った。これはどういう対応なのかと保護者の方は疑問に思った。それこそPTAで話し合うべき問題ではないかという話をした。本当に学校の対応が正しいのかについてはPTAの中で話し合ってもらう。ふとした疑問は放っておけば無関心になってしまう。ちょっとした疑問をどこに持っていくかという次のステップに持っていくことが大切だと思う。
- ホ ネ委員もおっしゃったが、すごくもやもやとするのは、ほとんどの人はもしやるとしたら⑤⑥で新しく立ち上げられると思う。おそらくまち協や自治会、PTAにあえて入ってまでやるとはならないのではないかなと思う。どっちにどうなっしてほしいかということにもよると思うが、まち協や自治会、PTAに興味を持ってほしいとかそういうことであれば興味を持ってほしい人たちがもっと魅力

的にならないといけないと思う。魅力的というのはマーケティング的な魅力的ではなく、楽しそうだなとかやったほうがいいなと思えるような人間関係や活動の仕方、アナログであったりとかとても面倒くさそうなことしているなということが結局見えてしまっていて、若手の方々にとってはとても入りづらくなっているのだろうと思う。少し問題が違うのではないかなと思う。だからどっちがいいか。無関心の方々に興味を持ってほしいというのが、どっちに対して関心を持ってほしいのか。個別でどんどん立ち上がっていくのがいいならそれでも無関心の方に「まちづくりはこういうことをしている」という話をもっと楽しく、魅力的に話せるような人を呼んできてというのも面白い。それが地域のまち協の方が「うちのまち協はこういうことしている！」という話をしてもらえたらそれはそれで面白いと思う。そういうのは見たことがない。自治会やまち協でお祭りはされているけれど、これは誰がどうやったのかは意外と知られていないから、そういう話をするだけでも面白いのではないかなと思う。

マ （会長）まち協とかで頑張っていらっしゃる方の生き様、退職してからこんな大変なことがあって、自分もやりたくないと思うことはあったがずっと根付いてやりましたという話を面白おかしく、でもしんどいけどやったらこんな人に会えたし市長とも話ができたり、普段会えないような人と会えたりという話し方をしてくださると少しは興味を持ってもらえると思う。

ミ 2つのタイプがある。今会長がおっしゃったような話し方をすると「そうなんだ」と終わってしまう人もいれば、「あなただからできた」となる場合もある。だからホ委員が言われたように、どちらに入ってもいい、PTA やまち協の組織に入る人は入ったらいいい。これからのまち協や自治会はそういったことをコーディネートするという役割にしていってほしいと思う。皆さんが好きなことをするということはまちづくりに関わっているから、それを一緒にしようと言うよりも、逆におまかせしてそこをうまくコーディネートするのもまち協や自治会の既存組織の一つの役割だと思う。何でもこの組織でないといけないとなれば、結局役をやらないといけない、自分のしたいことはするけれど役は嫌ですという人はいると思う。

ム （事務局）ミ委員のお話だと、⑧関心はあるがやり方・関わり方が分からないが⑤⑥になるのもいいのではないかな、必ずしも①～④にいかなくても、⑤⑥が増えてもいいじゃないか。そこを今後コーディネートしていくというのが今後のまち協の役割だと言っていたかと思う。この企画自体も正解を決めてずっと同じことをやっていくとは全く思っていないため、まずは⑧を⑤⑥につなげていくためのことを一回やっていきたいと思いますというのもありだと思う。①～④につなげることの大切さも同然あるため、それは次の機会に考えるとしてもいいと思う。皆さんのご意見を聞きながら、何回も何回もいろんなことを試していただければいいのかなと思った。

メ （会長）最初からたくさんやりたいことをあげるよりかは、今回はターゲット

を絞って⑧を⑤⑥につなげる、今度は①～④につなげるというふうに分けてもいいということですね。

モ （事務局）この表をまとめている時に、今後の話になるが例えば⑥の方々を①～④の方とマッチングするイベントも面白いと思った。こういったことも今後展開していけるので、今回はどうするというふうに切り分けながらでもいいと思う。

ヤ （会長）目的は⑧関心はあるがやり方・関わり方が分からないという人をどう⑤⑥の人につなげていくかという目的で今回のイベントを開催することとする。次回も話し合っ、目的が明確になってきたので、実施方法は次回にでも固めていければと思う。

ユ イベントの開催時期もあるが、それによっては委員の皆さんの地域の中でもイベントがあるかと思う。そういうところに見学、下見に行かせていただくことも必要だと思う。

ヨ （事務局）本日目的を固めていただいて、これから内容を話していただく段階なので早くても実施時期は令和6年度秋もしくは冬と幅広く令和6年度後半と事務局としては考えている。だから実際イベントをするまでに何回か推進会議が開かれるかと思うので、その他の時間を活用してイベントの告知をしていただいて、それぞれの団体の活動に見学に行っていただければと委員のご意見が適ってくると思う。ぜひ積極的な周知をお願いできればと思う。

3 その他

（1）事務局より令和6年4月以降の開催日程のお知らせを行った。

4 閉会

以 上